

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770800316	
法人名	社会福祉法人 啓和会	
事業所名	グループホームやわらぎ	
所在地	福島県喜多方市東桜ガ丘一丁目136番地	
自己評価作成日	平成23年11月9日	評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成23年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

4月に改築してからホール内が広くなり、車椅子の方でも対応できるようになった。台所もカウンター式になり利用者に向き合いながら関わりが持てるようになった。敷地内には畑があり野菜の栽培をし、食事に活用している。小規模多機能型居宅介護事業所が併設しており、利用者同士の交流も盛んに行われている。職員同士の協力体制も出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1、利用者は職員とうち解け、親しげに語り合い、笑顔で生き生きと暮らしている。
2、勤務シフトの改善により職員がゆとりをもって利用者とのコミュニケーションを図ることが出来るようになった。その結果、利用者にも落ち着きが出て、精神的安定が図られるようになった。
3、地域とのつながりが良好だったが、併設された小規模多機能居宅介護施設の利用者との交流も行われるようになり、地域との交流が更に活発になり、利用者の状態改善にもつながっている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>住み慣れた地域で生き生きと『笑顔』で暮らして頂けるサービスを心がけ毎日のケアに努めている。</p>	<p>理念の『住み慣れた地域で、安心して生き生きと笑顔でお手伝いさせていただきます』と目標の『笑顔』が事業所内に掲額されている。唱和はないが、職員の採用時や職員入れ替わりの時に、理念を確認し共有を図っている。実践はケアの中で行われている。</p>	<p>理念の共有化を日常的に行うような機会を持つ努力を期待したい。</p>
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>町内会に加入しており、地域の作業にも利用者と一緒に参加している。ご近所の方に野菜や花などを頂いている。</p>	<p>地域の花壇の担当場所を事業所で管理している。利用者は年3回の稲苗や草むしりに参加している。近所づきあいも良好で、事業所の改修オープニングにはグループホームの見学会も行われ、地域との交流を図っている。</p>	<p>地域には同法人が運営する保育園もある。事業所で学習発表会の練習をするなど、交流の試行を期待したい。</p>
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>日常関わっている姿を見て頂きながら、認知症の方に対する支援方法を理解して頂いている。要請があればいつでも応じることは出来る。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域の方に委員として参加して頂き、情報を公表し意見やアドバイスを頂いている。</p>	<p>夏祭りの神輿行列が当初、事業所を迂回するコースだったものを運営推進会議の委員でもある区長の尽力で事業所前を運行するコースに変更されるなど、利用者サービスの向上に活かしている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進委員として市の担当職員が参加しておりアドバイスや意見を頂いている。</p>	<p>市の担当者には生活保護の申請を相談してアドバイスを受けるなど気兼ねなく相談に乗ってもらい、良好な協力関係を築いている。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が『指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為』を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>外部研修や内部研修に参加しており拘束に当たるケアを行わないよう取り組んでいる。全ての施錠は外部からの侵入を防止する意味でのみ掛けている。</p>	<p>夜間の戸締まりだけで施錠はしない。帰宅願望が強い利用者がいたが職員の見守りと付き添いだけで対応した。いまは落ち着きを取り戻している。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止について学ぶ機会を設け、何が虐待に当たるのかを理解し、特に言葉による虐待が無いように努めている。</p>	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度を活用した利用者に関わった経験がある。必要に応じ支援できるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に十分に説明し、理解納得して頂いたうえで契約を結んでいる。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中で利用者の意見や要望を引き出し運営に反映させている。家族については面会時、話しやすい雰囲気作りに心掛けている。	利用者の意見の聴取は日常的に職員全員で対応している。グランドゴルフや紅葉ドライブなどの実施に繋げている。家族の要望、意見は面会時に聴取しやすくするように連絡帳で利用者の状態を連絡している。緊急受診にも家族に了解を得てから行うこととするなど運営に反映されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を開催し、全員で話し合える機会を設けている。日々のミーティングでも職員の気づきに耳を傾け、運営に反映させている。	職員の日々の「気づき」を申し送り確認しながら、対応を図っている。こうした日々のケアの積み重ねが次のケアプランになっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、出来る限り現場に出向き、職員や利用者とのコミュニケーションに努めている。その中で代表者自ら法人運営に参画し、職員の働く意欲向上や質の確保を図っている。介護職員処遇交付金を処遇改善手当として支給している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人内の研修はもとより、職員の力量にあわせ外部研修にも出来るだけ参加させる様努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会や関連法人のグループホーム管理者会議を開催場所を変えながら毎月開催し、管理者同士の情報交換をしている。また、各事業所担当で研修会を開催し、職員同士の交流や意見交換の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人や家族、関係者からの情報を元に、本人と職員の信頼関係を築くことを優先に関わりを持つよう努めている。また本人の些細な変化や言葉に耳を傾け安心して生活して頂ける様努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>実態調査・契約時に現在家族が困っていること、不安なこと、要望などをお聞きし、今後の支援に家族の思いが反映できるよう話し合っている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所相談を受けた際に状況を確認し、早急な対応が必要な場合は、他の施設などを紹介している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>毎日の家事全般において一緒に行き、お互いに協力し合いながらの生活を送っている。畑仕事も教えて頂きながら一緒に行っている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人を共に支えていけるよう家族との連絡を密に取り合い、情報交換に努めている。また、家族の状況にも配慮しながら病院受診や面会、行事への参加をお願いしている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>併設事業所に馴染みの方が来られた時は必ず声をかけ、一緒に過ごす時間を設けている。面会時は再度訪問して下さるよう促している。</p>	<p>馴染みのスーパーには毎日食材購入で出かけるほか、地域のお田植え祭りや諏訪神社祭礼などの祭り見物に出かけている。また、利用者に面会があれば、来所し易くなるようお茶出し支援をしている。小規模多機能施設に通所する同級生との交流で利用者の状態が回復向上した。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者一人ひとりの性格、認知症の状態、利用者同士の関係性を把握し、常に目配りや気配りをし、トラブルを予防し皆が楽しく過ごせるよう心掛けている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に応じるよう努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月に1回モニタリングとケアプランの見直しを行い、希望や意向の把握に努めている。利用者の様子や発言で気づいたことがあれば職員で話し合い、思いや意向に添えるよう取り組んでいる。	利用者の半数は要望をはっきり言う。職員は声かけて意見が出る雰囲気づくりを行うことで希望や意向の把握を行っている。外出や調髪の要望に応えたり、事業所内でのカラオケ参加などを行っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の実態調査での情報だけでなく、入所されてからの本人との会話の中からも情報収集に繋げている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や性格などに配慮し、その人なりのその人らしい生活のリズムで生活して頂いている。新しい発見があったときは職員同士が情報を共有できるよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングにて本人からの要望を伺い、次回のプランに反映させている。状態に変化のあった利用者には随時見直しを行っている。	利用者には担当の職員がいるが、心身の変化や思いなどの把握は職員全員で行っている。入院後の生活レベルの変更によってはトイレや食事などに新たな支援が必要になってくる。家族、担当医と相談して介護計画を作成する。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録やチェック表、申し送りノートの活用により情報を共有している。また、職員会議やモニタリングで、ケアの改善、介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合により、病院受診が出来ない場合は、職員が対応している。その日の天候により屋外での活動を実施する等、臨機応変な対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受け入れや、地域の行事やイベントに参加し地域との交流を深め、生き生きとした生活を支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じたかかりつけ医になっている。	精神科と今までのかかりつけ医を要望する場合は継続を基本としている。要望がなければ協力病院を受診する。会津若松市の総合病院は救急対応の場合ということを利用者、家族と話し合いして決定している。適切な受診支援が行われている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護を受け細かい様子を報告し適切なケアが行えるようアドバイスを受けている。また、受診に関して主治医との関係調整も行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を提供している。病院に職員が出向いたり、家族と連絡を取り合い状態把握に努めている。また、退院時に向けての情報交換を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制及び重度化・看取りに関する指針を定めている。契約時に重度化についてや看取りについての対応を説明し、その都度相談、検討が必要になってくることも説明している。状態変化により家族に報告し意向を確認しながら話し合いを行っている。	事業所として出来ることについては家族に説明している。しかし、「亡くなるまでが看取りではない」として、入院するぎりぎりまでケアを行うことを心がけている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所単独で全ての職員が応急手当や事故発生時の初期対応の講習を受けている。夜間帯の職員間の協力体制も出来ている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に併設事業所と合同で防災訓練を実施している。防災グッズも準備している。防災時の連絡網に、区長、近隣住民の方々に加わっている。消防署立会いで訓練を行っている。	防災訓練は月1回実施している。夜間訓練も10月に実施した。小規模多機能施設を併設して、通報装置を設置した。冬季間対策として非常口の除雪を検討している。いざという時の避難場所に近隣駐車場の利用協力を得ている。	消防署立ち会いの防災訓練は年2回実施することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴などを把握した上で、認知症の程度に関わらず一人の人間として受け入れ、尊厳を損ねることの無い対応に努めている。	声かけは基本的に「さん」づけで、利用者の生活歴に沿って、やりたいことを支援している。居室に入る時は必ず声かけをしてから入室する。排泄支援では耳元で声かけをし、入浴での着脱支援では細心の注意を払いながらケアを行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりの中で利用者が何を希望しているのか聴きだしたり察したりしながら、選択肢を提示し自己決定の機会を多く持っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中でパターン化することなく、生活リズムが乱れない程度に自由に過ごして頂いている。作業・レク・外出も本人の希望に合わせて支援するよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や必要と感じられた時は、馴染みの理容店に行ったり訪問理容をお願いしている。誕生会にはボランティアで着物の着付けをお願いし、着物を着て頂き、家族にも喜ばれている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に調理し、利用者と共に食事と会話を楽しんでいる。やりたいと言う利用者には極力やって頂けるよう心掛けている。	メニューは職員が工夫をしながらつくっている。利用者もやりたい人が職員と一緒に食事の準備や後片付けを家庭生活の延長で行っている。誕生会ではその人の好みの献立を用意したり、行事食ではこづゆや天ぷら、冬至かぼちゃなどを準備して利用者に喜ばれる支援をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎食ごとに記入している。摂取量に関しては1日をトータルに考えて健康状態の判断としている。嚥下機能や咀嚼状態に合わせて食事形態を替えるなどの工夫をして提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の声がけで見守りや、職員が義歯の清掃管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄能力に応じた支援を行っている。紙パンツを使用していた方が布パンツになるなどの成果も出ている。	排泄は大多数が自立している。支援が必要な利用者には、本人の性格をみながらベテラン職員が早めの声かけをしてすませるように対応している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取はもとより、野菜や果物を多く使った食事の工夫や整腸作用のある牛乳を毎日飲用して頂いている。また、散歩や掃除など体を動かすことで便秘予防に努めている。排便チェックをし状態により服薬調整を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるよう準備はしている。利用者の希望により入浴して頂いている。夕食後の入浴も行なっている。	事業所の改修工事を機に職員の勤務シフトを改善した結果、曜日ごとだった利用者の入浴が毎日入浴出来る利用者本位の入浴が可能になった。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのその日の体調や気分に合わせて好きな場所で自由に休息して頂いている。薬に頼らず安眠できるよう日中の過ごし方の工夫や精神の安定が図れるよう心掛けている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に変更があれば、申し送りノートに記載し職員全員が把握できるようにしている。また、その薬によって起こる副作用を予測し、状態観察と事故防止に努め医師・家族への状態の変化の報告を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	炊事や掃除、洗濯物たたみ、畑仕事など個々の得意とすることを活かした役割を持って頂いている。ビールの好きな方の為に特別な日に飲んで頂いている。ドライブやグラウンド・ゴルフなどの趣味を活かした活動を計画したりと気分転換の支援を行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、四季折々のドライブなどに出かけている。また、家族の協力を得て受診のついでに外食をして頂く事もある。	スーパーへの買い物は職員の付き添いで日常的に行われている。散歩はそれとなく声かけて外出誘導している。花見や紅葉狩りなどの季節ごとの外出はワゴン車導入でし易くなった。家族の協力で家に帰って線香上げも行えるよう支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的に職員が管理しているが、手元に無いと不穏になる方に関しては、家族の了解の下、無くなっても支障の無い金額を所持して頂いている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があればいつでも電話できるよう支援しているが、殆どは職員が代行している。あまり面会に来られない家族の方からの電話には直接お話しして頂ける様にしている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭的な雰囲気を壊さない程度に、壁面を活用して写真や利用者の作品を展示している。季節の花を飾ったりお月見の飾りや団子さしなど四季を感じて頂けるよう工夫している。</p>	<p>炬燵をしつらえた日本間からは大通りが眺められ、行き交う車や通学する児童生徒を見ることが出来て、家庭のような日常生活が味わえる。利用者合同で作った壁掛けや利用者の描いた掛け軸も掲げられている。食堂やリビングルーム、トイレも改修され、明るく居心地よく過ごせる空間になった。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>和室にはコタツ、ホールにはソファスペース、台所にはカウンターを配置し自由に利用して頂いている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>和室と洋室があり利用者の状態や生活習慣を考慮して決めている。状態の変化により交換して頂く事もある。自宅で使用していた家具を持ち込んで頂き家族と一緒に居心地の良い配置でレイアウトして頂いている。</p>	<p>7畳半の居室は畳敷きとフローリングに分かれているが、どちらも大きなクローゼットがしつらえ、中には生活用品がすっきりと収納されている。持参した筆筒の上に家族の写真が何枚も置いてあり、居心地のよい部屋に工夫を凝らしている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内は歩行器や車椅子でも移動できるスペースとなっている。部屋の出窓には鉢植えを置き管理をお願いし、自立した生活の支援に努めている。</p>		